Economic Indicators

発表日:2019 年 5 月 22 日(水)

貿易統計(2019 年4月)

～海外経済の減速と原油高により、貿易収支(季節調整値)は2ヶ月連続の赤字～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
副主任エコノミスト 小池 理人(TEL:03-5221-4573)

		貿易収支(億円)				輸出数量				輸入数量			
				輸出金額	輸入金額		アメリカ	EU	アジア		アメリカ	EU	アジア
		原数値	季調値	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
18年	3月	7,842	1,066	2.1	▲ 0.4	3.6	6.7	▲ 5.8	5.9	▲ 4.3	3.0	4.6	▲ 7.3
	4月	6,210	4,751	7.8	6.0	7.2	8.1	6.3	3.6	2.1	2.1	▲ 3.6	2.6
	5月	▲ 5,774	▲ 2,147	8.1	14.0	6.5	10.2	▲ 2.9	6.0	6.6	6.0	0.2	7.0
	6月	7,278	675	6.7	2.5	3.2	▲ 0.2	1.1	3.6	▲ 4.6	▲ 7.7	▲ 5.7	▲ 1.3
	7月	▲ 2,274	▲ 944	3.9	14.6	0.9	▲ 4.8	1.1	3.3	4.1	5.6	9.7	2.5
	8月	▲ 4,481	▲ 1,588	6.5	15.4	1.0	3.2	4.7	0.3	4.6	8.5	1.3	3.4
	9月	1,241	▲ 1,984	▲ 1.4	7.1	▲ 5.0	▲ 3.1	▲ 5.0	▲ 4.7	▲ 2.7	▲ 7.8	▲ 8.2	▲ 1.8
	10月	▲ 4,563	▲ 3,668	8.2	20.0	3.8	10.2	6.9	1.3	10.3	19.9	2.6	12.4
	11月	▲ 7,391	▲ 3,850	0.1	12.5	▲ 1.9	1.8	6.2	▲ 4.5	4.2	▲ 2.7	9.2	3.4
	12月	▲ 557	▲ 1,958	▲ 3.9	1.9	▲ 5.8	3.9	5.7	▲ 10.4	▲ 2.2	11.5	▲ 4.0	▲ 2.4
19年	1月	▲ 14,177	▲ 3,036	▲ 8.4	▲ 0.8	▲ 9.1	10.2	▲ 1.5	▲ 14.3	0.5	11.4	▲ 3.6	3.7
	2月	3,316	243	▲ 1.2	▲ 6.5	▲ 0.7	4.1	4.6	▲ 1.2	▲ 6.5	5.7	▲ 1.2	▲ 10.8
	3月	5,278	▲ 1,543	▲ 2.4	1.2	▲ 5.7	0.3	4.7	▲ 8.0	0.4	▲ 3.1	▲ 10.7	5.6
	4月	604	▲ 1,109	▲ 2.4	6.4	▲ 4.3	5.1	▲ 3.0	▲ 3.5	4.1	1.5	5.7	3.3

(出所)財務省「貿易統計」

○貿易収支（季節調整値）は２ヶ月連続の赤字

４月の貿易統計が財務省より発表され、貿易収支は＋604 億円の黒字（コンセンサス：＋2,295 億円、レンジ：▲2,700～＋6,453 億円）とコンセンサスを下回る結果となった

輸出金額についても、前年比▲2.4%（コンセンサス：▲1.5%、レンジ：▲5.2%～＋3.2%）とコンセンサスを下回った。輸出価格が上昇（前年比＋2.0%）した一方、輸出数量が減少（同▲4.3%）したことで、輸出は５ヶ月連続で前年比マイナスとなった。輸入金額については同＋6.4%（コンセンサス：＋4.6%、レンジ：▲4.4%～＋12.0%）とコンセンサスを上回る結果となった。輸入については、価格（同＋2.2%）、数量（同＋4.1%）ともに増加したことで前年比プラスとなった。

季節調整値では、輸出金額（前月比＋0.6%）、輸入金額（同▲0.1%）と、輸出が増加し、輸入が減少したことで、貿易収支は▲1,109 億円と前月から赤字幅を縮小した。

○実質輸出は前月比＋0.9%

為替などの価格変動の影響を除いた実質輸出は、前月比＋0.9%（実質化・季節調整は第一生命経済研究所試算）と前月から増加したものの、前月分の落ち込み分（同▲1.1%）を取り戻すには至っていない。中国を中心に海外経済の不透明感が増す中で、弱い動きが続いているものとみられる。

実質輸出を国別に見ると、とりわけ米国の伸びが目立つ。米国向けでは、化学製品（前月比＋

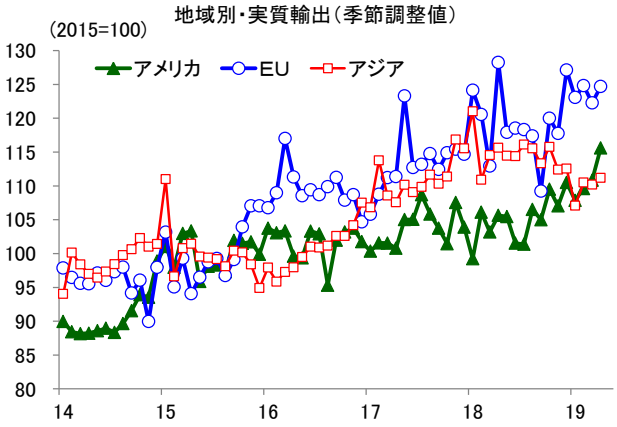
21.5%）や一般機械（同＋8.6%）が高い伸びとなり、米国向け輸出が全体（同＋4.3%）を押し上げた。米国・ＥＵ・中国の実質輸出はいずれも前月比でプラスとなったが、中国向けの電気機器（同▲2.2%）の動きは弱い。過去の経験則からＩＴサイクルの底打ちの時期を今年後半とする見方が多いが、依然として中国向けの電子機器の足取りは重く、今後の動きを注視する必要があるだろう。

○力強さを欠いた動きが続くことが見込まれる

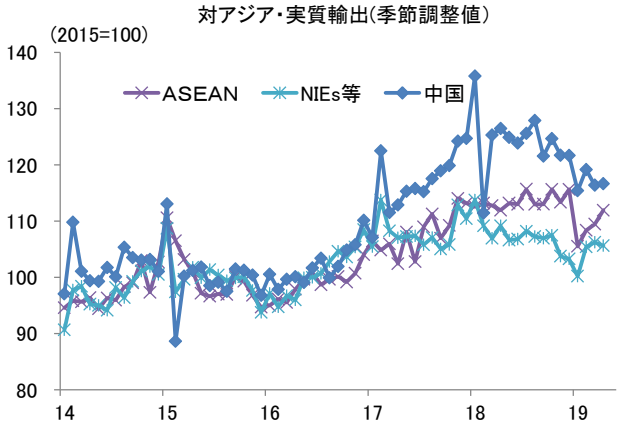
以上のように、４月の実質輸出は前月比プラスとなったが、１－３月期からの持ち直しは鈍い。

先行きについて海外経済をみると、米国経済は、雇用情勢が改善基調を背景に、個人消費がこの先も底堅さを維持することが見込まれ、引き続き堅調に推移するであろう。欧州経済については、英国の EU 離脱問題を抱えていることに加え、製造業を中心に企業マインドが落ち込み、欧州経済の減速感が強まっているものの、一段の景気の減速は回避され、緩慢ながらも成長を維持すると見ている。中国経済については、小売売上高や工業生産など、３月に回復の兆しを見せた経済指標が４月に再度悪化を示している。政府による景気刺激策を下支えとし、中国経済が崩れることは想定していないが、当面弱い動きが続く可能性が高いだろう。

このように、世界経済は先行きに対して不透明感を強めており、輸出は力強さを欠いた動きが続くとみている。米中貿易摩擦は５月に入ってから激しさを増しており、輸出に関する下振れリスクは高まっているため、貿易摩擦による世界貿易の停滞には一層注意を払う必要があるだろう。



（出所）財務省、日本銀行
※実質化および季節調整値は第一生命経済研究所



（出所）財務省、日本銀行
※実質化および季節調整値は第一生命経済研究所

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。